

Architecture

建築

9.23

THU.

1

2 司書

SAT.

8.21

Librarian

3 学生

Wed.

8.11

Youth

2021

未来の図書館 をつくるワークショップ

前橋市立図書館新本館構想
策定ワーキンググループ

Dialogue

MAEBASHI CITY LIBRARY

報告書

未来の図書館をつくるワークショップ報告書

企画：前橋市立図書館新本館構想策定ワーキンググループ

目次

I 開催趣旨 | 概要

- P.02 1-1 開催趣旨
- P.03 1-2 未来の図書館をつくるワークショップ概要

II ワークショップの記録

- P.05 2-1 学生WS「学生と考える人が集まる図書館」
- P.06 ワーク1：どのような仕掛けがあれば、その場所にいききたいと思う？
- P.10 ワーク2：子育てするときをイメージして、
どのような仕掛けがあればその場所に行きたいと思う？
- P.14 ワーク3：先進事例から図書館の魅力を探る
- P.19 クロージング：未来の図書館をイメージする

- P.23 2-2 司書WS「図書館キュレーターに求められる専門性」
- P.24 基調講演「北欧における公共図書館の意義と役割」
- P.25 ワーク1：図書館司書の専門性を考える
- P.27 ワーク2：図書館の可能性を探る

- P.29. 2-3 建築WS「対話が生まれる図書館建築」
- P.31 ワーク1：リサーチ、模型反映、発表
- P.35 ワーク2：4つの班の建築模型を合体
- P.38 小野田教授によるレクチャー
- P.39 参加者アンケート

III 子育て世代へのアンケート

- P.42 3-1 まえばし人形劇フェスタの来場者アンケート

IV 結び

- P.50 4-1 対話が生まれる図書館へ -3つのワークショップを終えて

V 資料

- P.52 5-1 未来の図書館をつくるワークショップチラシ
- P.53 5-2 ワークショップの講師・ファシリテーター、参加者総数

I ワークショップ開催趣旨 | 概要

1-1 開催趣旨

前橋市立図書館は、千代田町中心拠点地区再開発事業の一環として、中心市街地に新設移転する計画があります。そのため、教育長を議長とするプロジェクト会議や、公募の市民や有識者、図書館職員で構成するワーキンググループからなる「図書館新本館構想策定プロジェクトチーム」を設置し、市民の声を生かした図書館基本構想の策定に取り組んでいます。

この中で、ワーキンググループでは、図書館基本構想に多様な意見を取り入れるため、市民との対話の場として、「学生」「司書」「建築」の3つのテーマで、市民ワークショップを開催しました。

50年、100年後も地域の物語をつなぎ、市民の心に寄り添う公共図書館のあり方を考えていきたいという思いから、タイトルは「未来の図書館をつくるワークショップ」としました。

1-2 未来の図書館をつくるワークショップ概要

(1) 学生WS「学生と考える人が集まる図書館」

【第1回】2021.08.11 会場：前橋市高校生学習室

前橋市高校生学習室を運営するNPO法人Next Generationをモデレーターに、高校生や大学生などの若い世代が集まり、図書館に人が集まる仕掛けについてアイデアを共有します。自身の将来や今後のテクノロジーの進展を想像しながら、新しい時代の図書館の役割や可能性を考えます。

(2) 司書WS「図書館キュレーターに求められる専門性」

【第2回】2021.08.21 会場：オンライン（Zoom）

全国の公共図書館に勤務する司書等と、図書館が抱えている課題や司書の専門性向上のための取り組みについて、オンラインを活用して意見交換を行います。『フィンランド公共図書館：躍進の秘密』（新評論、2019年）などの著者である筑波大学図書館情報メディア系・吉田右子教授を講師に、北欧の公共図書館の事例を共有し、専門職の立場から今後の公共図書館の可能性を考えます。

(3) 建築WS「対話が生まれる図書館建築」

【第3回】2021.09.23 ※ 会場：前橋市立図書館

前橋工科大学建築学科の学生が作成した「現在の前橋市立図書館の建築模型(1/100)」をもとに、図書館を「対話による新しい学びの場」に変えるにはどのような仕掛け、インテリア、空間が必要かをグループで話し合います。そこで生まれたアイデアをその場で模型に反映することで、具体的に検証し、意見をフィードバックさせていきます。

（※当初、9月4日に開催予定でしたが、緊急事態宣言の発令を受けて延期しました。）

主催

前橋市立図書館新本館構想策定ワーキンググループ

II ワークショップの記録

2-1 学生WS 「学生と考える人が集まる図書館」

(1) 概要

日時：2021年8月11日（水）13：00～15：00（12：30受付開始）

開催場所：前橋市高校生学習室（前橋市表町二丁目30-8 アクエル前橋2階）

参加人数：26人（参加者：14人 オブザーバー：12人）

内容：来場参加者9人を3人3グループ、オンライン参加者を5人1グループにわけてグループワークを実施。

KJ法（付箋にアイデアを書いて共有）にて、ブレインストーミングを行いました。

導入（15分） 13：00～13：15	自己紹介・アイスブレイク・本日のテーマとスケジュール共有 ・各班に分かれて自己紹介、メンバー内の共通点などを話す。
グループワーク1（20分） 13：15～13：35	どのような仕掛けがあれば、その場所に行きたいと思う？ ・アイデアを付箋に書き出し、模造紙に貼っていく。
グループワーク2（20分） 13：35～13：55	子育てするときをイメージして、 どのような仕掛けがあればその場所に行きたいと思う？ ・インターネットや書籍で子育てのことを調べてアイデアを出す。付箋に書き出して、模造紙に貼っていく。
休憩（10分）	
グループワーク3（40分） 14：05～14：45	先進事例から図書館の魅力を探る 講義：「図書館職員から世界や日本国内の図書館紹介」 ・魅力を感じたことを付箋に書き出し、模造紙に貼りグループ内で共有する。
クロージング（15分） 14：45～15：00	未来の図書館をイメージする ・今まで話し合ったことをもとに、グループ内で意見をまとめ発表する。 ・振り返り、写真撮影など。



和やかな雰囲気で行われたワークショップ

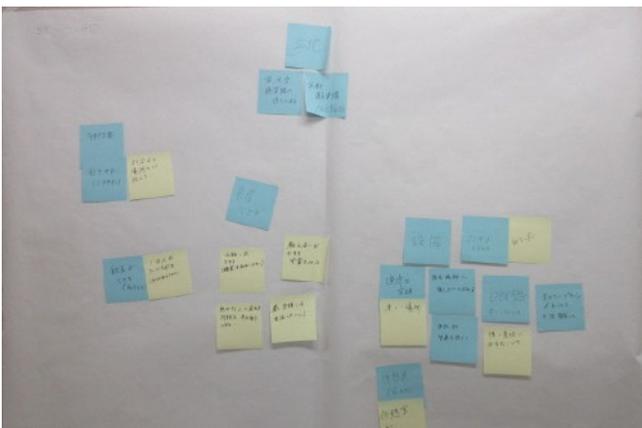
(2) 各ワークでの意見まとめ

(各班で出た意見のうち一押し意見は☆印で表記し、付箋の内容をそのまま転記しました。)

ワーク1：どのような仕掛けがあれば、その場所にいきたいと思う？

1班

- ・ 予約不要
- ・ 行きやすい (入りやすい)
- ・ 打ち合わせ場所として使える
- ・ 立地
- ・ 家、大学、通学路の近くにある
- ・ 無料駐車場／駐輪場
- ・ 飲食ができる (多少でも)
- ・ ごはんが食べられる (おなかすいてるから)
- ・ 長居できる
- ・ お話しができる (自習室はねむくなるし)
- ・ 色々な人に会える 同級生、年上年下大学生…
- ・ 交換ノート 交流したいっっ！
- ・ 求めている「モノ」が手に入る 本、服、雑誌etc
- ・ 設備
- ・ コンセント (USB)
- ・ Wi-Fi
- ・ 適度な空調
- ・ 涼しい場所
- ・ 読む場所に個人スペースがある
- ・ 床がやわらかい
- ・ 自販機 安い、suica
- ・ 腰の負担にならないイス
- ・ 教え合いができる学習スペース
- ・ 休憩室 (寝れる)
- ・ 休憩室 ねたい



書き出したアイデア



グループワークの様子

ワーク1：どのような仕掛けがあれば、その場所にいきたいと思う？

2班

- ・ 明るい（2票）
- ・ 次回使えるクーポン
- ・ 何かもらえる
- ・ 本だけでなく美術館や博物館などがある
- ・ 様々なサービスがある
- ・ 個人スペースが多くある
- ・ ずっといられる
- ・ 広い
- ・ エアコン
- ・ 快適
- ・ フリーWi-Fi
- ・ エレベーター
- ・ エスカレーター
- ・ 見た目がすごい
- ・ インスタ映え（2票）
- ・ スタバみたい



書き出したアイデア



グループワークの様子

ワーク1：どのような仕掛けがあれば、その場所に行きたいと思う？

3班

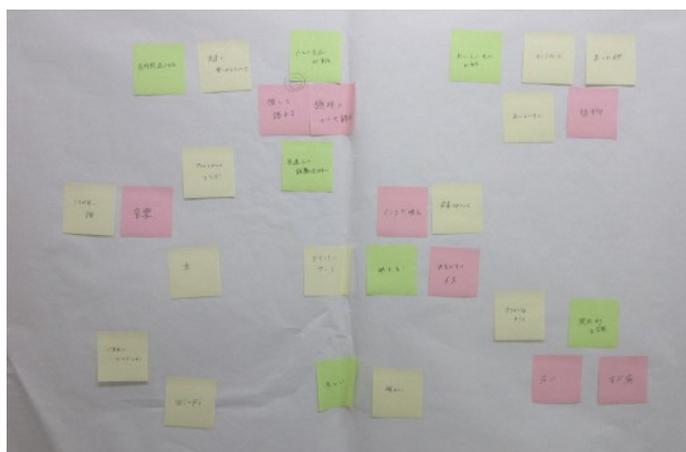
☆人との交流がある

☆趣味を語れる

☆推しを語れる

- ・長時間過ごせる
- ・友達と楽しめるスペース
- ・友達との話題になりやすい
- ・ノリが良い音楽
- ・音楽
- ・アニメとかとのコラボ
- ・本
- ・ご自由にどうぞのやつ
- ・Wi-Fi
- ・おもしろいアート
- ・インスタ映え

- ・映える！
- ・写真スポット
- ・おもしろいイス
- ・涼しい
- ・暖かい
- ・おいしいものがある
- ・キレイな水
- ・おいしいもの
- ・花とか自然
- ・植物
- ・オシャレなカフェ
- ・開放的な空間
- ・広い
- ・なか庭



書き出したアイデア



グループワークの様子

ワーク1：どのような仕掛けがあれば、その場所にいきたいと思う？

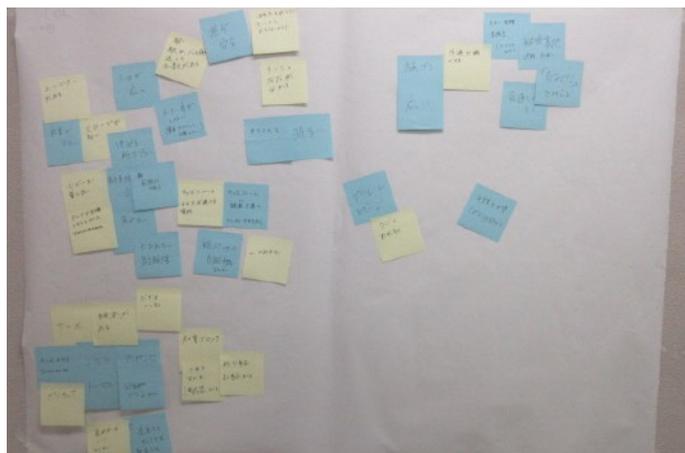
オンライン班

- ・ 落ち着ける
- ・ 飲食ができる
- ・ 大人数でも活動ができる
- ・ ネット環境が整っている
- ・ 気軽に入りやすい
- ・ 交通の便が良い (3票)
- ・ 様々な施設が一つにまとまっている
- ・ フリーWi-Fiが利用可能
- ・ 大人数でも入りやすい
- ・ 営業時間が長い
- ・ 安価で楽しむことができる
- ・ カフェや店がある
- ・ 店内が広い
- ・ 駐車場がある
- ・ フリーWifi
- ・ その施設でしかできないことがある
- ・ 冷暖房の施設がしっかりしている
- ・ 食事も軽くできる
- ・ 共有スペースが広い
- ・ 自転車で行きやすい
- ・ 開放感がある
- ・ 明るい
- ・ 勉強もできる
- ・ インターネットが利用できる
- ・ 話せるスペースもある
- ・ 学校のグループワークができる
スペースがある
- ・ 集中できる空間もある
- ・ 朝早く、夜は長くやっている
- ・ カフェなどの食事ができる
- ・ 駐車スペースが広い (車・自転車)
- ・ インターネット環境が良い
- ・ 1人でも集中して勉強や読書
できるスペース
- ・ 大人数でグループワークができる

ワーク2：子育てするときをイメージして、どのような仕掛けがあればその場所に行きたいと思う？

1班

- ・エレベーターがある
- ・段差が少ない
- ・スロープが多い
- ・休める場所が多い
- ・風除けがある
- ・ベビーカー貸し出し
- ・駐車場が広い
- ・オムツが交換できるスペース
- ・角がない
- ・（自転車）倒れない駐輪場
- ・入口が広い
- ・大きい音がしない
(電車、クラクション、工場etc…)
- ・駅かバス停が近くて本数がある
- ・道が安全
- ・舗装されてたり、側溝に落ちないように
- ・子どもの存在が分かる
- ・カラフルな
- ・明るい
- ・キッズスペース 子どもが遊べる場所
- ・キッズルームに絵本を置く。とにかく柔らかく
- ・紙パックの自販機 ストロー
- ・↑のみやすい
- ・ビデオレンタル
- ・アニメ
- ・絵本がある
- ・キッズビデオ（トムとジェリーみたいな）
- ・プリキュア
- ・ジブリ
- ・トーマス
- ・アンパンマン
- ・ドラえもん
- ・見ればいい とにかく見たい
- ・↑流れてるだけでも 無音でも
- ・知育ブロック
- ・のぼる すべる（家ではできないうごき）
- ・ぬり絵 お絵かき
- ・騒げる
- ・広い
- ・外遊びできる
- ・せまい空間を作る
- ・パーソナルスペース
- ・秘密基地 速読 宝探し
- ・「自分で！！」を叶える
- ・見通しがきく
- ・プラレール Nゲージ
- ・動くおもちゃ
- ・手続きが楽（ポスト返却など）



書き出したアイデア

ワーク2：子育てするときにイメージして、どのような仕掛けがあればその場所に行きたいと思う？

2班

- ・安全性 けがをしないように
- ・安全性がある（床がマット ころんでもケガしにくい）
- ・安全にはいりょしている
- ・サイエンス実験
- ・スペシャルゲスト
- ・話題性がある
- ・イベント
- ・けいひんつきの何か！！！！
- ・ポイントがたまる！
- ・親と子供が一緒になって何かする仕組み
- ・みんなで遊べるものがある
- ・遊具がある
- ・仕掛け絵本 パズルとか？
- ・スマホなどを使わないで遊べる
- ・スマホやゲーム
- ・子持ちの人が多くいる
- ・子どもだけのスペースがある
- ・同年代がいる



書き出したアイデア



グループワークの様子

ワーク2：子育てするときをイメージして、どのような仕掛けがあればその場所に行きたいと思う？

3班

☆安心

☆安全（3票）

☆明るい

☆子どもを見つけやすい

☆ケガしにくい

- ・一緒に勉強できる
- ・ファミリースペース
- ・一緒に遊べる
- ・体をうごかせる
- ・体を動かせる 遊べる
- ・新しい趣味がみつけれれる
- ・他人と関われる
- ・他の年代とも関われる
- ・同じ子育て世代と交流できる
- ・交通の便が良い
- ・バス

- ・駐輪場が広い
- ・（大人が）ついていなくても子どもだけでいける
- ・大人が見守ってくれている
- ・見てなくても大丈夫
- ・長時間いることができる
- ・休む場所がある
- ・広い
- ・お金がかからない
- ・わかりやすい言葉で表示
- ・勉強に役立つ
- ・楽しく勉強してもらえる
- ・“頭が良くなる”うたいもんく
- ・質問できる
- ・習い事に関連する



書き出したアイデア



グループワークの様子

ワーク2：子育てするときをイメージして、どのような仕掛けがあればその場所に行きたいと思う？

オンライン班

- ・ 学習スペースの充実
(宿題や受験勉強に向けて)
- ・ 食事スペースがある
- ・ 親が仕事で遅くなるときに
待っていてもらえる安全な環境
- ・ 学習漫画の充実
- ・ 自由研究ができるスペース
- ・ 夜も明るい
- ・ 大人も子どももいる
- ・ 広い
- ・ 子どもだけで遊んでいて安全な環境
- ・ 親と子がそれぞれ楽しめるような要素
- ・ 自習スペースが充実している
- ・ 自宅や学校からの距離が近い
- ・ 思い立った時にいつでも行ける
- ・ 塾、本屋、親と一緒にいるのが
嫌な世代でも時間がつぶせる店
(親がスーパーで買い物をしている間に
子どもはほかの店で)
- ・ 夜遅くまで営業
- ・ 防犯設備が整っている
- ・ 集中できる環境がある
- ・ 自分も時間を潰すことができる
- ・ 安全
- ・ すぐに迎えにいける距離
- ・ 子供が楽しいと思える環境がある
- ・ 学習スペースがある
(大人数でも、少人数でもできるスペース)
- ・ 充実した本の種類
- ・ 塾に行くまでの時間など、少しでも時間をつぶ
せる場所
- ・ 中学、高校生だけでいても安全だと思える場所
- ・ 自転車でも行ける、気軽に行ける距離
- ・ 食事スペース

(3) ワーク3：先進事例から図書館の魅力を探る

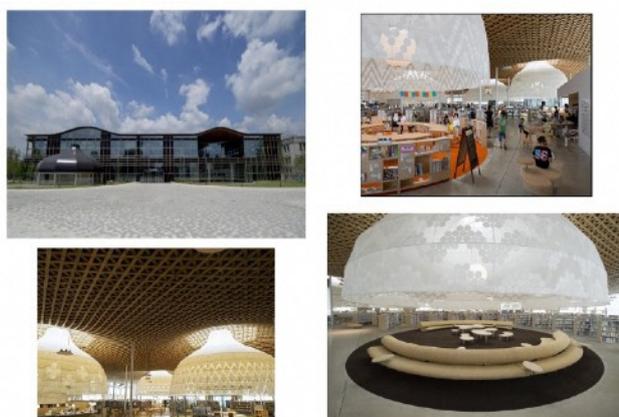
講義「図書館職員から世界や日本国内の図書館紹介」

- ・ぎふメディアコスモス岐阜市立中央図書館
- ・せんだいメディアテーク仙台市民図書館
- ・OODI（オーディ）フィンランドヘルシンキ中央図書館

内容：それぞれの図書館が持つ資料収集やサービス機能の特徴を写真も交えて紹介しました。また、日本国内の図書館だけでなく、世界の図書館として図書館利用率世界一のフィンランドにあるOODIも事例として紹介し、3つの図書館の良い所、今後の図書館に取り入れられそうな所などをグループワークで話し合いました。（講義：図書館構想WG副リーダー・若井苗）



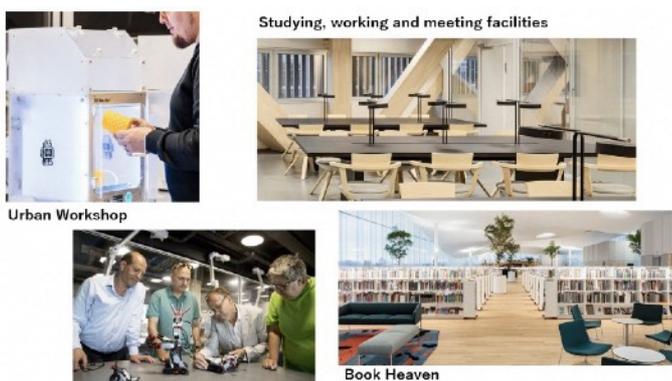
図書館司書が事例を紹介



出典：ぎふメディアコスモス 岐阜市立中央図書館
 《 <https://g-mediacosmos.jp> 》 2021.08.11



出典：せんだいメディアテーク 仙台市民図書館
 《 <https://www.smt.jp> 》 2021.08.11



出典：OODI フィンランドヘルシンキ中央図書館
 《 <https://www.oodihelsinki.fi/en/> 》 2021.08.11

ワーク3：先進事例から図書館の魅力を探る

1班

☆幅広い種類の本をおく

☆長居

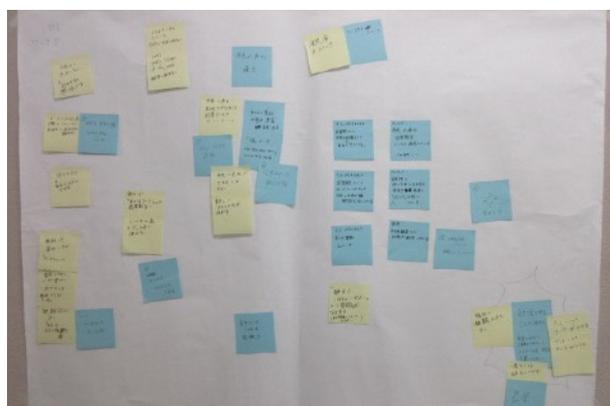
☆勉強できる（人と話せる）

☆本屋にはない（採算のとれない）マイナーな本、雑誌を置いてほしい

☆喋るのOK 長居 長くいやすい

☆グループワークができる（2票）

- ・名前からかわいらしい→行きやすさ興味でる
- ・そこにしかない本（郷土について）がある
→行かなきゃ読めない
- ・せんだい 郷土資料（強）その他とそれぞれ独立
- ・外にテラス→気分てんかんできる
- ・夜遅くまでやっているPM 8時はありがたい
- ・OODI Public Library of the Year朝早く夜おそく
- ・飽きない→色々なワークショップ蔵書数多い
- ・小中高とずっと長く使える。
- ・ぎふ ターゲット→子どもの成長
- ・無料は参加したい→ワークショップ
- ・普段できないレーザーカッター
- ・3Dプリンタ 普段できない→行く
- ・雑誌が多い→日本はあまり種類ない
- ・OODI 20か国語の本、種類
- ・市民の声が通る
- ・市民の声を反映させながら図書かんをつくっていく
- ・ぎふ コミュニティとの共存
- ・市民の交流ができるのは大きい
- ・新しいコミュニティが作れる
- ・文化の集約→歴史、建築、音楽、演芸
- ・「場」の力
→「本を読む、貸りる」だけではない価値
- ・ぎふ 公共マナーの学びの場
- ・落ちついていれば音楽も
- ・飲食スペース
- ・入りやすいふんいき
- ・ぎふメディアコスモス 図書館というイメージにしばられず市民や子供の関係を大切にしている。
- ・「静かにしなきゃいけない」という雰囲気がなさそう（ある程度のマナーはあるが…）



参加者をまとめる小高さん

- ・ぎふ 360° 方向で座れる形のソファ
- ・ぎふメディアコスモス 図書館として市民の為の設備として両立できている。
- ・岐阜メディアコスモス 形がユニーク
- ・フィンランド 人気世界一へ
市民の為の図書館をとことん追究している
図書館に様々な用に合わせた部屋を配置し
「リビング」一テーマの様になっている
- ・せんだい 映像音響ライブラリー
群馬でいうツルノス??
- ・宮城
市の知識庫として情報が整理されている。

ワーク3：先進事例から図書館の魅力を探る

2班

- ・本を読むだけじゃない
- ・多目的
- ・複合施設
- ・いろんな形で利用できる
- ・いろんな施設がある
- ・多目的な施設
- ・災害、避難場所に図書館
- ・OODI
- ・無料
- ・ネットでは調べきれないほどの情報量
- ・冊数の多さ
- ・本が多くある
- ・本がギッシリあってムダがない
- ・木造(?) っぽい あたたかみを感じる
- ・広さ
- ・おしゃれ
- ・近代的
- ・大きい 広い
- ・見た目
- ・映える
- ・図書館ぽくない
- ・歴史や文化を感じられる
- ・スケールが大きい
- ・社会性を育くめる
- ・子どもらしさを大切にしている
- ・子どもを尊重
- ・国際色豊か
- ・多言語
- ・多文化交流
- ・市民活動
- ・地域とつながっている
- ・いろんな人がいろんな時に利用できる
- ・いろんな人が利用できる (バリアフリー)
- ・障がい者に対する配慮
- ・大人→本重視 子供→遊び重視
- ・バリアフリー
- ・誰でも使える
- ・人との交わりを学べる
- ・いろんな人を知れる (施設や設備を通して)
- ・(やさしい) 理解がある
- ・長い時間あいてる (2票)
- ・今の社会にあった施設がある
- ・家庭にはない物の利用が手軽にできる
- ・季節感がある

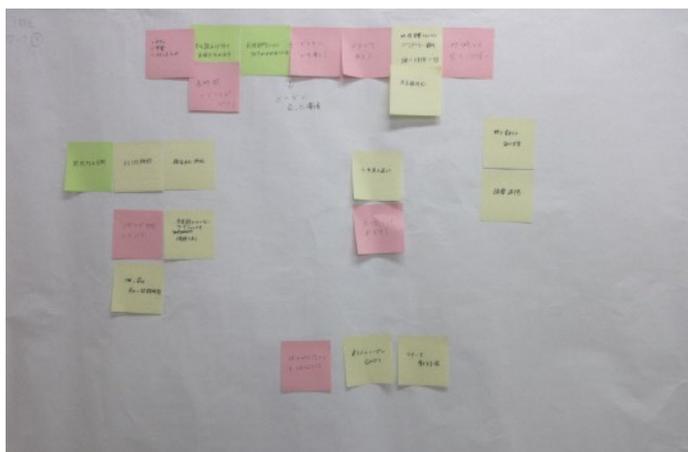


書き出したアイデア

ワーク3：先進事例から図書館の魅力を探る

3班

- ・利用目的ごとにフロアがわかれている
 - ・どの年代でも使える
 - ・だれでも使える
 - ・映像音響ライブラリー、バリアフリー資料
誰でも利用できる
 - ・多言語対応
 - ・地域との関わりが深い
 - ↓
 - ニーズに合った環境
 - ・カフェ、学習、イベントとか
 - ・本を読む以外の利用方法がある
 - ・長時間いることができる
 - ・開放的な空間
- ・キレイな施設
 - ・複合文化施設
 - ・フロアが独立している
 - ・図書館だけでなくワークショップや機械もある
 - ・9時～20時 長めの開館時間
 - ・小、中、高を通して
 - ・やりたいことができる
 - ・他のプロジェクトとつながっている
 - ・来る人のニーズに合わせて
 - ・マナーを教える場
 - ・郷土資料や調べ学習
 - ・読書通帳



書き出したアイデア

ワーク3：先進事例から図書館の魅力を探る

オンライン班

- ・ある程度騒いでも許容される
- ・独立型の書架（探し物がしやすい）
- ・特殊な機械の無料開放
- ・多言語での書籍、楽譜の貸し出し
- ・デザイン性の高い建物
- ・図書の利用にとどまらない多様な機能を有する
- ・一貫した理念のもとに運用している
- ・使う人のニーズにあった設備が用意されている
- ・見た目、外観の重要性
- ・複合施設
- ・外観に独創性
- ・テラスのように開放的な空間
- ・図書館としての利用にとどまらない設備



学生ワークショップに参加した大学生・高校生

(4) クロージング：未来の図書館をイメージする

1班

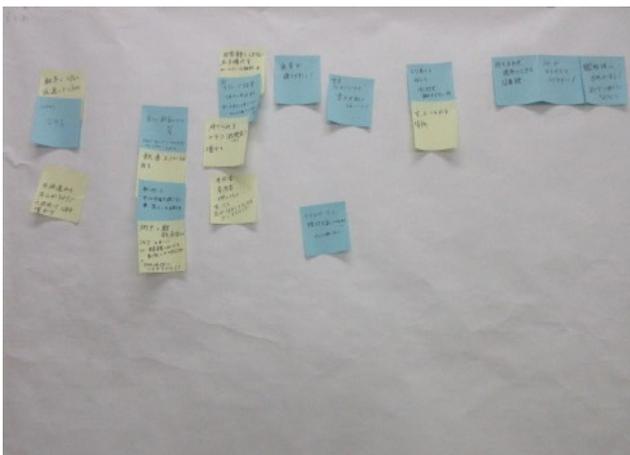
☆フィールドワークの窓口があるとうれしいです
 ☆マイナーで採算とれない本がある 例：東南アジア、東ヨーロッパのファッション誌、グルメ誌など

- ・朝早くopen 夜遅くにclose
- ・（ほぼ）24h
- ・子ども連れも来られるように子供向けの本を増やす
- ・近くに飲食スペースor店 スタバ、タリーズ、TSUTAYA、ブルーボトルのような
- ・飲食スペースを作る
- ・朝に行ってそこでお昼を過ごせて帰ってこれる様な所
- ・街中の飲食店とのコラボとか？ex図書館使ったら割引してくれるとか
 →まち中活性化につながるかも！？

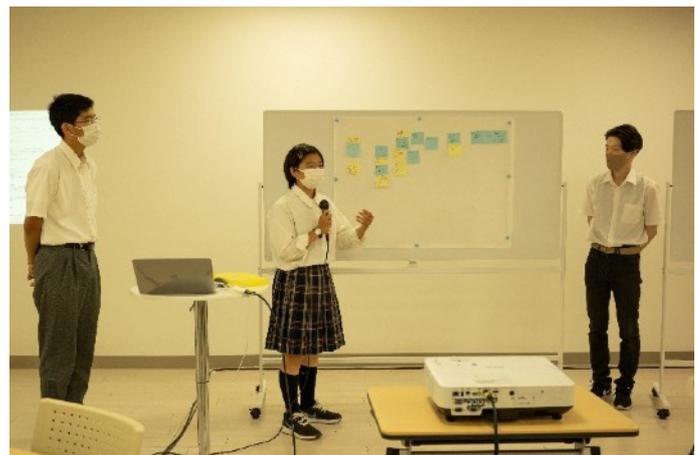
- ・図書館にしかない本を増やすex:マイナーな雑誌、本
- ・借りられるビデオ（視聴覚）しりょうを増やす
- ・専門書、参考書、郷土しりょう…売っても売れなさそうな本をおいてもらいたい
- ・意見が通りやすい！
- ・ワークスペースと機材が安くつかえると…プロジェクターなど
- ・入り易くて明るくてうるさすぎず静かすぎない所
- ・ずっといられる場所
- ・待ち合わせ場所にできる図書館
- ・入口がひらけてて入りやすい！
- ・駐輪場に屋根がある！
 風でドミノ倒しにならない

〈発表意見〉

種類の少ないジャンルの本をふやしてほしい。長居をしたいので、飲食スペースがあるとより長居しやすくいいのかなと思う。そのためにも長く開館時間を取ってもらえるといい。従来の図書館は暗いイメージがあるので、明るくて入りやすい図書館になるといい。仕事をする人のために、仕事に使えるスペースやもしお金がかかるとしてもなるべく安く機材を借りられるようになってほしい。



書き出したアイデア



発表の様子

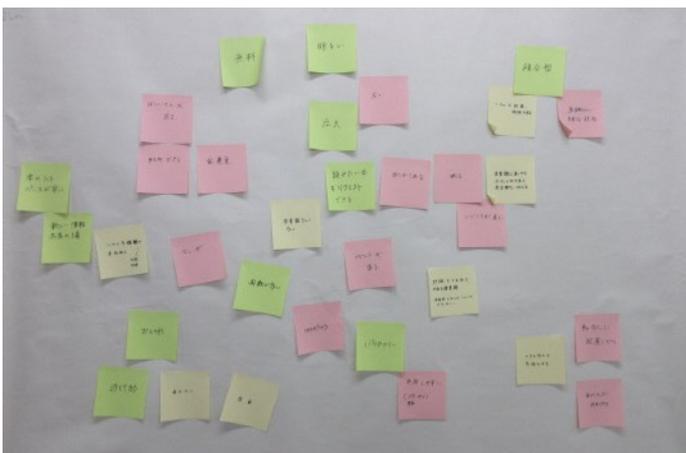
クロージング：未来の図書館をイメージする

2班

- ・本が入るペースが早い
- ・新しい情報共有の場
- ・いろんな種類、言語、分野の本がある
- ・売店がある
- ・無料
- ・寝泊まりができる
- ・飲食
- ・マンガ
- ・冊数が多い
- ・おしゃれ
- ・近代的
- ・目をひく
- ・自由
- ・図書館らしくない
- ・meeting
- ・明るい
- ・広大
- ・広い
- ・読みたい本をリクエストできる
- ・何かくれる
- ・映える
- ・イベントがある
- ・バリアフリー
- ・利用しやすい（バス電車など）
- ・居心地が良い
- ・地域とつながりのある図書館
- ・商店街となにかイベントがあったり…
- ・複合型
- ・いろんな設備、施設のある
- ・多様な施設
- ・図書館に通ったらポイントがたまって商店街でつかえる
- ・色々な人に配慮している
- ・いろんな人と交流できる
- ・多くの人を利用できる

〈発表意見〉

読みたい本がリクエストできる。図書館にいろいろなサービスがあれば時間があるときに行けて、図書館との交流も増えるのでは。建物もインスタ映えするような建物だと見ているだけでも楽しい。図書館を利用することでポイントをためて、それを街中で使えるようにできたら地域との連携もできてコミュニケーションが生まれることで図書館を利用しやすくなるのではないかな。



書き出したアイデア



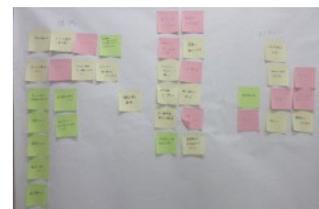
発表の様子

クロージング：未来の図書館をイメージする

3班

〈 場所 〉

- ・学生の体験の場
- ・アートや植物で見ても楽しい
- ・イベント
- ・図書館に行くことによってまちなかのイベントに参加できる
- ・子どもが楽しめるしかけ
- ・カフェ
- ・カフェや食堂があって移動しなくてもいい
- ・広かったり狭くて落ちつくスペースがある
- ・多くの目的で利用することができる
- ・床に座れる場がある
- ・学習スペース
- ・託児スペース（子どもを見てくれる場）がある
- ・飲食スペース
- ・雑談（交流）スペース
- ・駐車場が広い
- ・情報を得る場所



書き出したアイデア

〈 希望 〉

- ・本を借りるだけじゃない
- ・商店街に人が集まれる
- ・バリアフリーや多文化の人にも優しい
- ・人と関われる
- ・子どもも親も安心して過ごせる
- ・郷土の歴史が学べる
- ・同じ趣味を持つ人に出会える
- ・友達と行ける
- ・どの世代にも利用しやすい
- ・商店街まで人が流れていくイベント

〈 コンテンツ 〉

- ・世代間交流ができる
- ・読みたい本が必ずある
- ・ずっといれる
- ・参考書がある
- ・安全
- ・マンガやCDがおいてある
- ・広い
- ・明るい
- ・雑誌やCDもある

〈 発表意見 〉

場所、希望、コンテンツで分けた。場所は、図書館だけでなくそこにながら一日過ごせるようなカフェがあることや保育学生が読み聞かせをしたりして、学生にとっての学びの場になったり、子育て世代にも安心して過ごしてもらおう場所になるといい。希望は、商店街に人が集まれるようにイベント情報を図書館で知って参加してもらえるようになるといい。本を借りるだけでなく、地域の人に愛される場所になってほしい。コンテンツは、子供が減って、外国人が増えているので、多文化への理解を深めるための取り組みができるといい。本だけでなくCDや漫画など親しみやすいコンテンツも置いてあれば、より人が集まるのではないかと思う。



クロージング：未来の図書館をイメージする

オンライン班

- ・自習スペースも充実
- ・多様な年代に対応した所蔵
- ・開放的で余白の多い空間
- ・立ち寄りやすい外観
- ・格式張っていない温かい雰囲気的空間
- ・図書館だけが新しく移転しても現在の状況を鑑みるに新たな利用者を獲得するのは難しい。複合施設といった街中が一体となり再開発に取り組むことで多くの利用者が集まると思う。前橋こども図書館を別館とするには離れているので、各世代が一カ所で本を借りられるような仕組みを持っている。
- ・前橋のまちなかについてまとまっているスペースがある
- ・まちなかにあった雰囲気（2票）
- ・自習メインではなく、人々が交流することがメインになる図書館
- ・古い本も新しい本もある
- ・まちなかを知ることができる、詳しくなれる
- ・学生歓迎の機能
- ・街のコンセプトに合った外観
- ・目的別に別れた部屋（読書、自習、交流）
- ・図書館内のわかりやすいハンドマップ
- ・多ジャンルの蔵書
- ・誰もが行きたいと思えるような、多様性のある図書館
- ・まちなか（図書館以外）に行くことが目的の人も気軽に立ち寄れるような図書館
- ・充実した本の種類



オンラインの参加者は会場でプロジェクター投影して共有

2-2 司書WS「図書館キュレーターに求められる専門性」

(1) 概要

日時：2021年8月21日（土）13：00～15：30（12：45から入室可能）

開催場所：Zoomでのオンライン形式

参加人数：21人（参加者9人、オブサーバー12人）

内容：筑波大学図書館情報メディア系・吉田右子教授による基調講演の後、

図書館司書として全国の図書館で勤務する参加者9人を1グループとして2つのワークを実施。

導入（10分） 13：00～13：10	あいさつ、スケジュール共有、参加上の諸注意、講師紹介
講義（65分） 13：10～14：15	<p>理念を共有する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基調講演「北欧における公共図書館の意義と役割」 講師：筑波大学図書館情報メディア系 吉田右子教授 ・質疑応答
休憩（5分）	
ワーク1（30分） 14：20～14：50	<p>図書館司書の専門性を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基調講演の北欧図書館の事例をもとに、講演を聞いて感じたことや日本の図書館でも取り組めることなどを話し合い共有する。司書の専門性はどのようなことか考えを深める。
ワーク2（30分） 14：50～15：20	<p>図書館の可能性を探る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・50年後の日本の図書館を考え、用紙にキーワードを記入。未来に向けて日本の公共図書館がどのようになっていくべきかを議論する。
まとめ（10分） 15：20～15：30	<p>まとめ</p> <p>講評：吉田教授</p>



事務局の様子

(2) 基調講演「北欧における公共図書館の意義と役割」

筑波大学図書館情報メディア系・吉田右子教授から、北欧公共図書館をテーマに、北欧では図書館がその地域に住む人たちにとってどのような役割をもった場所なのか、また、司書が担う役割などについて基調講演をしていただきました。

■ 講義概要

8カ月ほどデンマークに滞在し、現地の図書館を訪れるなどしながら現在まで北欧公共図書館の研究をしてきた。

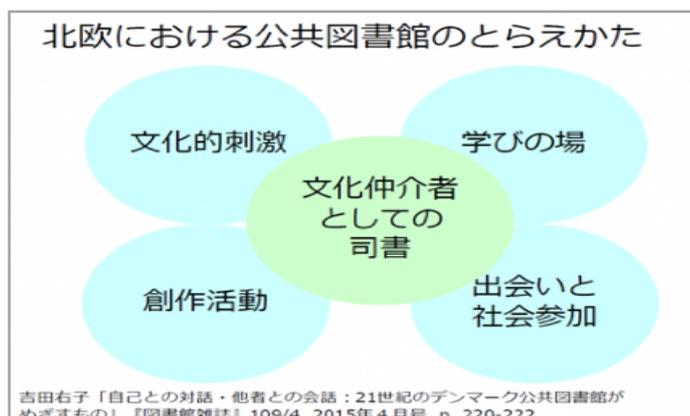
前提として、公共図書館は文化保障機関としての役割があると考えていて、情報・メディア、文化・知識へのアクセスを保障し、それにより生涯学習支援を行う場所として揺るぎない理念を持っている。日本と北欧の図書館について違いを考えた時、日本の図書館は「知的緊張感」に満ちていて、静かな空間の中「自己との対話」をしながら、疑問に思ったことはレファレンスで司書に聞いて「答えを得る」ことができる場所だと考えている。一方で、北欧図書館はそれにプラスして「文化的刺激」「他者との対話」「問いを作る」ことができる空間だと考えている。

現在の北欧図書館は文化的刺激を受ける・創作活動をする・学びや出会い・社会参加の場で、司書は場と人を繋ぐ文化仲介者と名乗っている。また、移民難民へのサポートや文化プログラムを

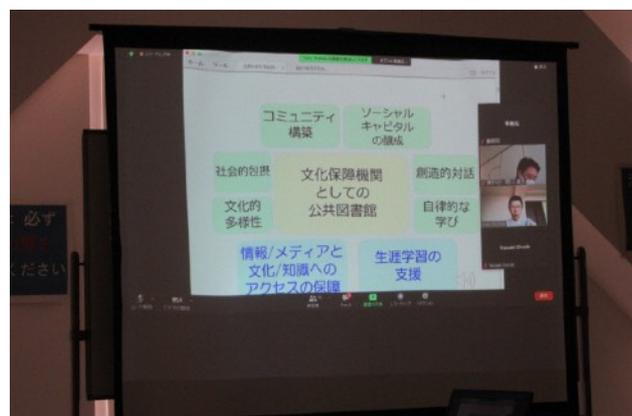
コーディネートする仕事が非常に重要で、さまざまな人にさまざまな本を読んでもらうための工夫を行っている。

北欧図書館は図書館と公民館が共存する施設で、図書館内の各スペースでは、芸術作品に触れ、図書館で得た情報を発信していく動きがある。その他にもスタジオなどの音響施設や若者の居場所となるスペースなどがあり、多くの役割を果たしている。

ノルウェーなどでは公共図書館は会話をする場所であると法律で定められ、会話を通じて学びを得ることができることと認識されている。その中で、文化や情報格差を解消することが図書館の最も重要な役割で、読書や資料の貸出を繰り返して行えることが本来の在り方だと考えている。世界や日本の図書館で様々なことができるようになってきているが、図書館にしかできないことを図書館が行うことにおいて、本を読んで本を借りるという利用方法は基本だと感じている。



基調講演資料



基調講演の様子

(3) ワーク1：図書館司書の専門性を考える

ワーク1では、吉田教授の基調講演を受けて図書館の活用方法や司書の専門性について議論を行いました。参加者が日頃の業務での事例などを交えながらの議論になり、活発な意見交換の場となりました。

〈主な意見〉

・公務員の世界には研修制度があるが、図書館の世界にはない。専門性も地域によって違いがあると思うが、専門性や司書の仕事について考えないと、これからの図書館ではなく図書館のこれからが考えられなくなってしまうと思う。

・吉田先生の基調講演の中で、図書館司書の仕事は問いを作ることだという話があった。北欧図書館のスタンダードが日本にも入ってきて、問いを作るための能力を図書館で養うことができるような働きができるといい。

・イベントやレファレンス時などは利用者とのやり取りが熱を帯びることもある。図書館の中で対話を取り入れていくことはいいことだと思う。

・利用者の中には図書館に完全な静寂を求める人もいて、多少のにぎやかさを許容していくという意識がなかなか浸透しにくい現状だと感じている。

・レファレンスコーナーから出る声に関しては意見がなく、図書館にとってレファレンスが重要な要素であることを認識してもらえているのではないかと感じる。必要だと認識はされているが利用率はまだまだ低く、利用が少なくと司書の技術向上にもつながらない。

・図書館が音を出してもいい場所であることや、いろいろなことができる場所であることを広く認識してもらうことが今後の課題である。

・コロナ禍で、コミュニケーションが希薄になることがある。図書館に来てイベントに参加したり、疑問点をレファレンスで司書に聞いたりして、他者との対話やつながりを図書館で作り出せたら素敵だと思う。

・ワークスペースとして場所を用意しても、どういう使い方をしていいのかわからない人も多いのではないかと感じている。図書館関連団体の利用者がメインで、図書館側から具体的な利用方法を示していくことが大事だと思う。

・ラウンジスペースでレコードコンサートを行ったときは、音への苦情などはなかった。出ている音が楽しめる音なら受け容れてもらえるのではと感じた。利用者にも音が出ていることが普通だという意識をじわじわと広げていければ、許容してもらえるのではないかと。

・図書館内の対話という点で、図書館はレファレンスサービスが大事だというのが図書館界の常識になっているが、司書がやりすぎているのではないかと感じている。利用者の疑問に対して時間をかければ十分な情報を提供することはできるが、次の質問が生まれなくなってしまう。どのように利用者と司書が対話をするのか、司書がインタビューをする能力を身に付けて、スキルに何かプラスワンしていかないと図書館のこれからは考えられないのではないかと。

ワーク1の整理

吉田教授の基調講演を受けての意見や各館の取り組みについての意見が出ました。図書館内で利用者と司書の対話や利用者同士の対話を生み出すために、それが可能なスペースを作ることや図書館にはさまざまな活用方法があることを知ってもらう取り組みを行っていく必要があるなど、司書がそれぞれの地域の図書館で行ってきた事例について感じたことや課題を共有しました。

また、レファレンスや館内にあるスペースを活用してもらうために、イベントなどを通して図書館が行っていることを広めていく働きかけが必要だけでなく、地域の人がどんなことを行っているのかを図書館側が知る機会を持つことも利用普及のために大切だという意見も出ました。

図書館内の音については、どの図書館にも静かな環境を求める利用者は必ずいて、「音を出してもいい」という環境と「静かな場所」という環境をどう両立させるかが課題になっているという意見が多くありました。



オンライン上のワークの様子

司書ワークショップ参加館

那須川町小川図書館（栃木）、浦安市立中央図書館（千葉）、飯能市立図書館（埼玉）、静岡大学附属図書館（静岡）、滋賀県立図書館（滋賀）、奈良県立図書情報館（奈良）、広島県立図書館（広島）、台北日本人学校（台湾）

(4) ワーク2 : 図書館の可能性を探る

ワーク2では、参加者それぞれが考える図書館の可能性についてキーワードを発表してもらい、議論をしました。キーワードは図書館についてだけでなく、社会に対してのメッセージなど多様な視点から考えられたものが多く、いかに図書館が社会とのつながりや関係性の高い場所であるかが分かりました。

〈発表キーワード〉

文化のハブ

文化のハブということから考えると100年、200年後とかなり長い話になるが、その中の50年後は先の事に感じる様で自分たちにとっては責任のある時代。長い時間の中で文化を作っていくために、変わらないものは何か、より意識しないといけないところは何かを考えた。

リアルとデジタル・収集と共有と創造・1人とみんな

電子書籍を含め、デジタル空間はこの先必要になる。その一方で、リアルな空間として場も必要になる。利用者が情報を収集する・共有する・想像する場として、それを1人ですか・みんなとするかなど、さまざまなキーワードに対してどれを求めてきても提供できるような場所を作ることが大切だと思う。

文化財の保管施設・暮会所のような場所

今後はデジタル資料が多くなっていくと思う。そうすると、現在30代くらいで生きている人たちは、紙資料もデジタル資料も両方知っている最後の世代になるのではないか。50年後の図書館は静寂の場所ではなくなり、文化財の様に紙資料などが保管され、デジタルな媒体を見ながらみんな対話をする場所になるのではないか。

見知らぬ世界とのつながりの場

デジタル化が進んで情報にアクセスする、自分が好きなものやそれらしいことを見つけること、提案されて情報を受け取ることが容易な一方で、そこから得られる情報はかなり制限されているような気がしている。図書館はその人にとって知らない、興味を持っていなかった世界も提示し続けられる場所で、その資料と利用者をつなげる役割が司書の専門性として必要になると思う。

変わらないサービス・情報収集・読書支援

図書館は利用者の経済状況や生活環境によって必要な資料にアクセスできない、勉強ができないということがないように情報を届けていく場だと思う。それと同時に、高齢者や障害者などさまざまな利用者に適した媒体で資料を届けることも図書館の役割で、利用者が情報を取り入れていくためのITに関する支援や使い方の講習など、必要な支援体制を図書館が担っていかなければいけないと思う。

自由

図書館として守るべき選書の基準の中でも現在は自由が少ないと感じる。基準の中で電子書籍を制度としてどう運用していくかがなかなか見えづらく、議論が進まないこともあるが、先の事を考えるとうまく付き合っていかななくてはいけない。利用者や館内の運営について、今後は自由をテーマに50年後も利用者の生活に寄り添っていける図書館を目指したい。

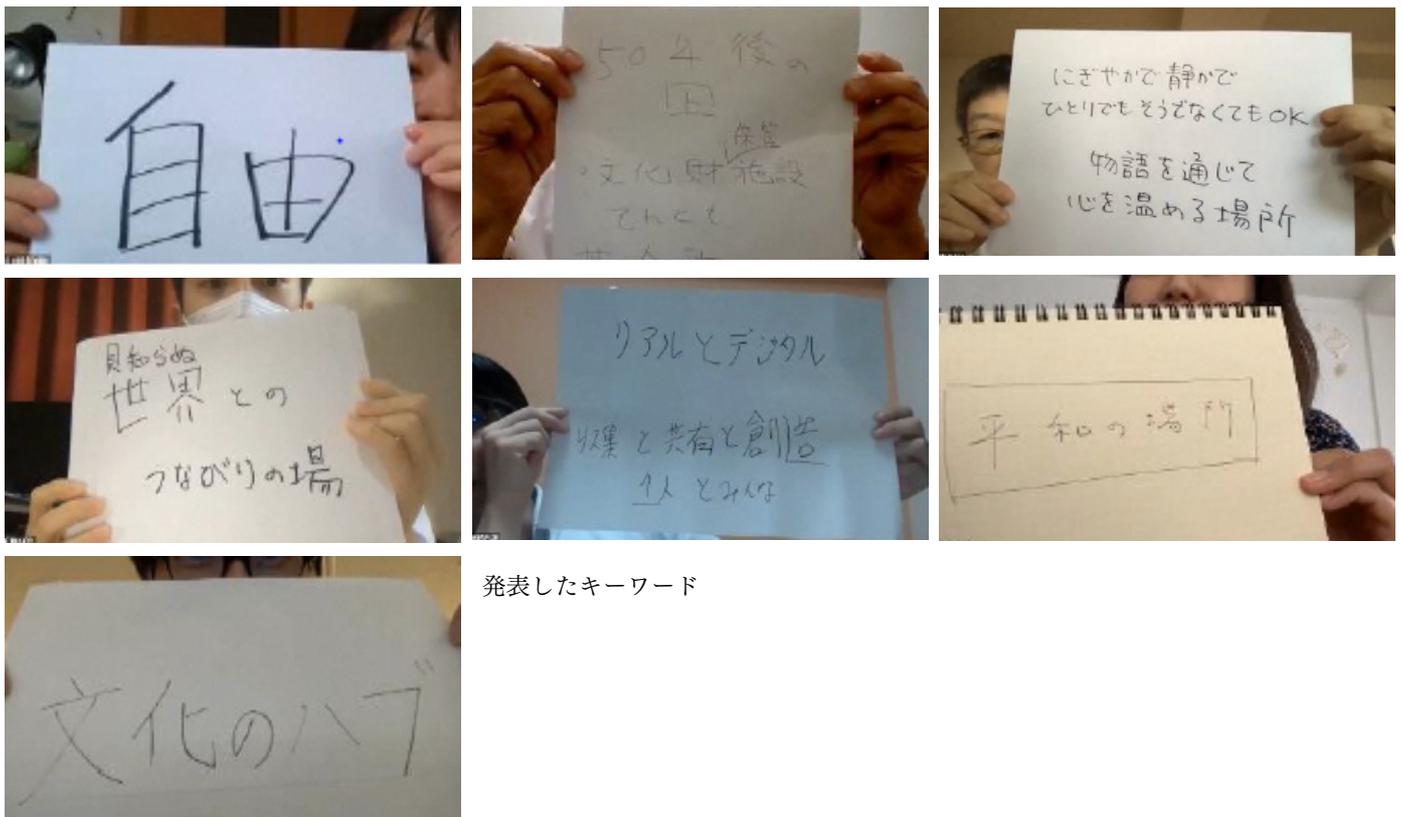
平和の場所

特殊資料を知っていることや古文書を扱えることなど、図書館は知への専門性を求められる場所になると思う。図書館にはルールがあるということを逆手にとって、安心して発表できる、ディスカッションできるという利用者の自由を守る場になっていったらいいと思う。

■ 吉田教授講評

にぎやかで静かでひとりでもそうでなくてもOK 物語を通じて心を温める場所

ラトビアの図書館ポータルサイトで「図書館は魂の薬局」というフレーズと出会った。図書館は50年後も魂の薬局だと考えている。北欧でにぎやかな図書館を知り、刺激を受けて、日本でも図書館をにぎやかにしていくための活動に取り組んできたが、なかなかそうならない実感がある。司書にその話をするとう否定されることはなく、どちらかという利用者静かな図書館を望んでいる気がしている。現在の大学図書館は、以前よりにぎやかになり、徐々に変化し始めている。図書館には様々な可能性があるので、様々な利用者が様々な形で文化にアクセスできて、発信していけるような場にするサポートが必要だと思う。



(1) 概要

日時：2021年9月23日（木・祝日）13：00～15：00

開催場所：前橋市立図書館 地下講堂

参加人数：44人（参加者23人、補助員（前橋工科大）11人、オブサーバー10人）

内容：前橋工科大学建築学科の学生が作成した前橋市立図書館の建築模型をもとに、図書館を「対話による新しい学びの場にするにはどのような仕掛け、インテリア、空間が必要かを考えます。模型は4つに分割し、各班ごとにパートを担当。班ごとに話し合い、そこで出たアイデアをその場で模型に反映することで具体的に検証していきます。

協力：前橋工科大学（石黒研究室）学生

その他：会場には東洋大学建築学科の学生が、前橋でのフィールドワークをもとに図書館を含んだ都市計画を行った建築模型を設置。アイデア出しの参考資料としました。

導入（20分） 13：00～13：20	あいさつ、スケジュール共有、参加上の諸注意、講師紹介、自己紹介
ワーク1（15分） 13：20～13：35	リサーチ：各班で図書館内をリサーチ、良い所、悪い所、お気に入りの場所を探す
ワーク2（45分） 13：35～14：35	リサーチして考えた意見を模型に反映する
発表（20分） 14：35～14：55	各班で出た意見を基に作成した模型について発表、4班分の模型パーツを合体する
まとめ（5分） 14：55～15：00	講評、振り返り
レクチャー（30分） 15：00～15：30	希望者対象 小野田教授による映像レクチャー



前橋工科大の学生が作成した建築模型



会場に設置した東洋大学学生の建築模型

ワークの流れ

1. 館内をリサーチ

班別行動で図書館内をリサーチします。その後、建築模型を対話が生まれる図書館に変えるための話し合いをするので、その目線で可能性を探ります。



模型の特徴を説明する石黒講師

2. 図書館模型を4分割して、各班で話し合う

館内のリサーチを元に、班で担当するエリア（模型）を選択。どのように作り替えたなら、対話が生まれる図書館になるか話し合います。その中で出たアイデアを工科大の学生が作業をして模型に反映。アイデアを形にしていきます。

3. 作り変えた建築模型とアイデアを発表

班で完成させた模型をどのように作り変えたかを発表します。

4. 再び4つの模型を合体

4つの班で作業を分担した模型を再び一つに合体させます。その変化について、意見交換を行います。



リアルタイムで素早く作業する学生たち



子どもたちも来場しました

1班 ワークと発表



〈発表〉

リサーチ時に屋上が活用できると感じ、それを実現した。利用者用のエレベーターがないことや、子供用スペースがうまく使われていないのではと思い、外側に階段をつけて各階の屋上に登れるようにエスカレーターや階段をつけて、24時間利用できる屋外スペースをイメージした。

外側に延びる通路は、市役所の緑地部分と繋げられるように考えた。3階の視聴覚室がもったいないという意見があり、もっと活用できるようにしたいと考えて2階と3階部分を入れ替えた。



2班 ワークと発表



〈発表〉

事務室が広めだったので削り、それにより生まれた空間を活用してカフェ空間を作成した。2階のトイレ横スペースを立ち入りできるようにして、子供がカベに落書きして遊べるような造りにした。自習室の横にあるスペースと自習室3分の1を削り、テーマにもある「対話のできる・騒げるスペース」と「静かに過ごせるスペース」を作成した。このスペースは3メートル四方の独立したスペースで、周りはずりガラスをイメージしている。屋上には芝生を敷いて、グランピングやハンモックなどのイメージでそこで本を読むことができるようにして、他にもぶどう棚などを作成した。

また、地下書庫の中を見られないのがもったいないので、書庫資料を利用者の目に見えるようにするために書庫の天井をガラス張りにした。



3班 ワークと発表



〈発表〉

心の拠り所になるような場所が現在の図書館には少ない気がして、自然光をたくさん取り入れて気持ち良く過ごせる空間づくりを目指した。現在の事務室をキッズスペースに変えて、新聞・雑誌コーナーからキッズスペースが見渡せるような造りにした。2階の壁を抜いてガラスに変えて、カフェスペースにした。さらに、2階部分の屋上に木を植えたりして、屋内と屋外を自由に行き来できるようにした。3階のグループ読書室の壁を抜いて大きな空間にして、外を感じられる空間を現在より多く取った。



4班 ワークと発表



〈発表〉

天井に丸い穴をあけた。空や外の景色が見えるように、壁にも外が見えるような窓をたくさん作って自然光を取り入れる工夫をした。四角くて大きい本棚がたくさん並んでいる圧迫感が怖いので、あえてきれいに並べないようにして、渦を巻くような円形に配置した。本棚にベンチや仕掛け扉をつけて、座ったり触ったりしながら楽しめるようにした。その他にも、一つの形だけでなく円柱形の本棚なども作った。中二階部分の手すりに丸みをもたせて角をなくし、現在行き止まりになっているところにスロープをつけて館内全体を巡れるような作りを意識した。中央図書室部分にエレベーターを配置して、お年寄りや車いすの人にも使いやすい造りを目指した。玄関外の部分にテラス席を作って、カフェ利用をしながらテラスにも出られるといい。

ディズニーランドをイメージして、図書館全体をエリアごとに雰囲気を変えて、さまざまな空間を作れたら館内を回るだけでも楽しめるのではないかと思った。目的を限定しないで使えるでっぱりや壁などを増やして、利用者が自由な発想で使用できる動きを増やせることを目指した。床も布や木の板などで触ったりできるようになるといい。





(上) 合体させた建築模型。新しい姿に参加者一同驚いた
(右) 作業前の図書館模型



〈主な意見〉 1つになった模型を見ての感想

(1班)

- ・意外とまとまりがあった。今の建物と比べて硬くなく、柔らかい感じがある。

(2班)

- ・すごく開放的になった。
- ・四角い棚が並んでいると怖いという話があったが、角が丸くなると印象が変わる。

(3班)

・バックヤードの模型の割り当てで苦労したが、出来上がってみて一体的に見るとすごく回遊性が生まれていて、元々部屋で区切られていて自由な移動が難しかった図書館が、ぐるぐる巡って楽しめそうな空間になった。

・現在の図書館とは結構変わって、自然光を取り入れた造りとか、多様な人たちが楽しめる空間となった。

・自分たちの班は機能面寄りで考えていたが、他の班をみると結構ダイナミックで、逆にこれくらいぶっ飛んでいても面白かったのかと思った。色んな案が見られて楽しかった。

(4班)

・この図書館は割と古い図書館なので、どこに行っても本と人だけでできていると思ったが、これだけ人の居場所が増えることは素晴らしいことだと思う。触れることができるということが大切だと思った。図書館は本を触るだけで、建物に触れることはできなかったが、本棚や建物に関われるということは、建築に対して親しみを覚えられることだと思う。

・模型を全て合わせたとき大丈夫なのかなと心配があったが、みんな考えていることが一緒だと感じた。色んな方たちが図書館にやってきて、色んな楽しみ方をして、群馬ならではの綺麗な空を見ながら自然を楽しみながら、こういった空間を利用したいという気持ちは一緒だということを再確認できた。4つの模型が見事な作品になったという印象を受けた。





石黒由紀 講師

ひとつ大きなキーワードとして「壁を取り払う」、言葉ではよく言うが実際取り払ったらどうなるかを実感してもらえたかと思う。行けなさそうなところに行けるようになる、今まで行けなかったところに模型で行けるようになるというのを、帰りに実際に館内を見ながら想像してもらえればよいと思う。また、環境と共生するという点で、木があったり、自然の空気があったりというような、言葉で言われていることを形にするということが、自分たちの手でできるということを実感してもらえたかと思う。この感覚を日常に持ち帰ってもらって色々なことに可能性を見出してもらえればと思う。



藤野高志 講師

現在の図書館は色々な空間が潜んでいて、暗いところから明るいところ、開けているところから閉じているところ、ある種の迷路のような形だと思う。そこをリサーチして、最後屋上に上って周りにどんな風景が広がっているかを見るという体験自体が面白かったと感じている。これから新しい図書館に向けて、みなさんで話し合っただけの時代の図書館の価値を考えると、前橋の図書館は独特な図書館だと思うので、良かった部分をきちんと新しい図書館に継続していけるような、前橋の歴史がちゃんと引き継がれていくような形で、新しい図書館の議論ができていくことが良いと思う。今日話し合ったアイデアなどを、次の新しい図書館に活かされていくためにも、私たち自身も尽力していけたらと思う。



感想をのべる若島図書館長



吉川教育長もワークショップを見守りました

(4) 小野田教授によるレクチャー

東北大学大学院工学研究科・小野田泰明教授によるWS参加者向けのレクチャー「図書館の可能性と課題」（映像、約30分）を、2回（12:30～13:00、15:00～15:30）上映しました。

内容：1.図書館の始まり（紀元前数世紀）、2.本の発明と図書館の発展（紀元前数世紀）、3.教会による独占、4.大学の誕生と活版印刷の発明：図書館のビックバン、5.宗教改革と知識の大移動、6.世界の表象としての図書館、7.普通の人々のための図書館、8.情報社会の到来と図書館の多様化

<アンケート意見>

建築ワークショップの参加者に向けて、アンケートを実施しました。その中で新館への意見（自由意見欄）を抜粋して掲載します。

1 新しい本館の建設にあたり、提案がありますか。

(1) 施設についての提案

- ・従来通りに施設を活用したい人と、図書貸出・読書の用途以外の使われ方を望んでいる人の、どちらも取りこぼさないような空間づくりを継続線で行えると良いなと思いました。
- ・コミュニティファーム（菜園）
- ・寝転がれるスペース
- ・外で本が快適に読める空間
- ・空の魅力を最大限に生かす
- ・迷いこめる楽しさ
- ・本の向こうに景色が見える
- ・ディズニーランド（エリアごとの机・イス・トイレ・色・材質のバリエーション）
- ・自由にイスを選べる
- ・曲線→柔らかさ・見通せないわくわく・安心感
- ・触りたくなる・動かしたくなる材質、しかけ（隠し机）
- ・本はしっかり読まなくてもイイ
- ・緑を多く
- ・本棚を小さくバラバラに配置する+座れる本棚、空いている本棚も配置
- ・本の種類をバラバラにする
- ・人が気軽に立ち寄れ、ワクワクする仕掛けのある空間づくり
- ・本を借りる目的以外でも寄れる場所にしてほしい
- ・屋上の芝生の空間を夜解放して星が見られるようにしてほしいです。
- ・今の前橋市立図書館の雰囲気は何かしらで引き継いでもらいたい。レンガであり…階段にちょこっとある窓が好きです。
- ・屋上を活用させる
- ・ニューヨーク公共図書館で行われているような、多様性のある、知的好奇心があつまような施設をつくってほしい。
- ・市民（特にこれからの利用者である若い人）の意見を取り入れた施設であってほしい
- ・飲食スペースの充実をお願いします。
- ・本日提案したことをご参照ください。
- ・多様な居場所をたくさん作ってほしい
- ・誰でもどこからでも気軽に入れる
- ・飲食自由
- ・どこでも借りられてどこでも返せる

(2) サービスについての提案

- ・司書さんの仕事が見えると、子どもは楽しそうです。
- ・どこでも貸し借りできるようにする。
- ・本だけでなく、飲食やショッピングなど、複合的に楽しめるようなものがよい。
- ・本の相談以外でも話を聞いてもらえるようなサービスがあると良いのでは
- ・カフェはチェーン店ではなくて個人経営のものが良いと思いました。
- ・本を読む場所、くつろぐ場所が今よりも欲しいです。
- ・カフェなどゆったりできるところを作る。
- ・深夜までやっている図書館。
- ・本を貸し出すためだけでないサービスがほしい。いろいろな人と出会える、つながる、体験できるきっかけを提案できるサービス。
- ・やはり駐車場に問題がある。近くの駐車場の使い方を見習ってうまく連携する事が必要だと思う。
- ・カフェスタイル、デリバリーカフェなど
- ・24時間営業

2 50年後・100年後の図書館はどうなっていると思いますか。

- ・公園で我々は遊んだように、図書館が誰にでも心理的に近くに感じられる場所になると良いと思います。
- ・いろんな角度から本を楽しんで、もっとたくさんの人が「本が好き！」と思える場所。
- ・リビングルームのようになっている。触る、感じるが価値化する。
- ・電子書籍がもっと主流になる。
- ・本が読めなくても行きたくなる！（国際教養大学中嶋記念図書館を参考にしました）
- ・勉強や読書だけでなく、子どもから大人まで集まって自然と触れあったり、カフェを利用したりできる場所。
- ・電子的になり、紙の本というものが減ってきて、もっと自由な空間が広がっているのではないかと思う。
- ・図書館はなくなってしまうのでは。
- ・今と変わらず憩いの場所。
- ・屋内なのか、屋外なのか、あいまいな図書館。
- ・様々な年代の人が訪れ、にぎわっている。
- ・家のように居心地が良い場所。
- ・本を貸し出すためのものではなくなっている気がします。
- ・やはり同じ様に残っているのだと思います。紙から入る情報は良いと思いますので。
- ・街に溶けていくような施設が良いと思う。最終的には建物が無くなるようなイメージ。
- ・図書館だけではない機能を含めたスタイルになってほしい。
- ・本がなくなっているが文化の集積地としての機能は残る。

Ⅲ 子育て世代へのアンケート

3-1 人形劇フェスタの来場者アンケート

主に子育て世代の意見をきくため、前橋こども図書館で開催した「第10回まえばし人形劇フェスタ」の参加者アンケートに併せて、図書館新本館についてのアンケートを実施しました。図書館では毎年利用者アンケートを実施していますが、イベントに併せて実施することで、普段図書館の利用が少ない層からの意見を取り込むことをねらいとしています。

調査時期：2021年7月18日（日）

調査対象：第10回まえばし人形劇フェスタの来場者

（成人を対象としたが、未成年者の回答も含まれている。）

回答数：成人：来場者 111人中 86人、未成年：来場者 86人中 6人

〈回答の結果〉

(1) 居住地

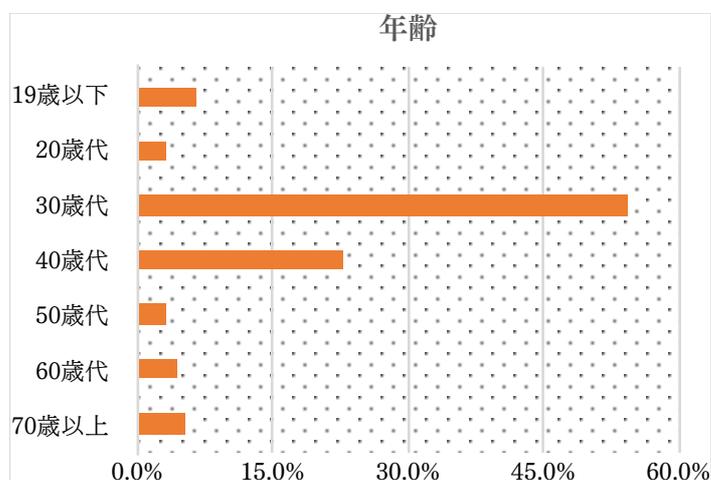
名称	人数	割合	備考
前橋市	77	83.7%	
相互利用対象都市	11	12.0%	高崎市3 伊勢崎市、渋川市、吉岡町、玉村町各2
その他	4	4.3%	県内3（沼田市2、富岡市1）、県外1（埼玉県）
合計	92	100%	

来場者の8割以上は前橋市民でした。

相互利用を行っている自治体6カ所のうち5カ所から来場者がありました。

(2) 年齢

区分	人数	割合
19歳以下	6	6.5%
20歳代	3	3.3%
30歳代	50	54.3%
40歳代	21	22.8%
50歳代	3	3.3%
60歳代	4	4.3%
70歳以上	5	5.4%
合計	92	99.9%



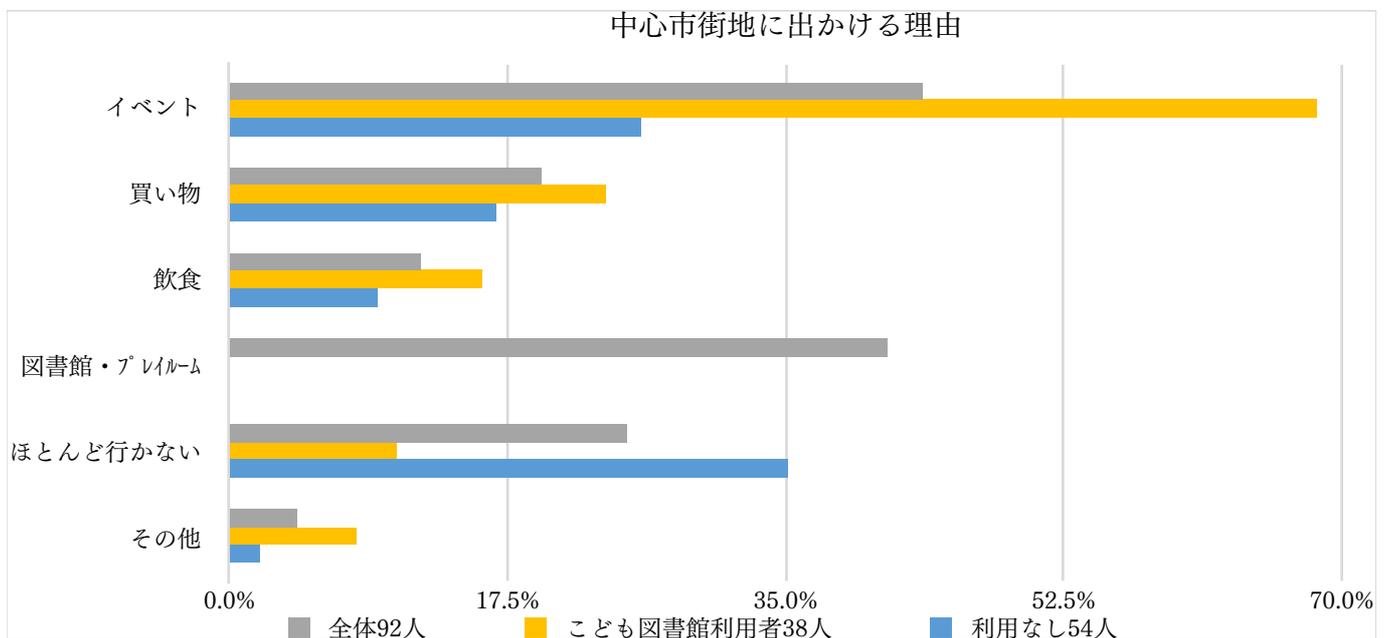
30歳代、次いで40歳代が多く、両者で77.1%を占めています。

回答内容から19歳以下は小学生（10歳以下）と思われます。

(3) 中心市街地に出かける理由を教えてください。

(複数回答可)

	全体 (92人)	利用者 (38人)	利用なし (54人)
イベント	43.5%	68.4%	25.9%
買い物	19.6%	23.7%	16.7%
飲食	12.0%	15.8%	9.3%
こども図書館・プレイルーム	41.3%	100.0%	0.0%
ほとんど行かない	25.0%	10.5%	35.2%
その他	4.3%	7.9%	1.9%



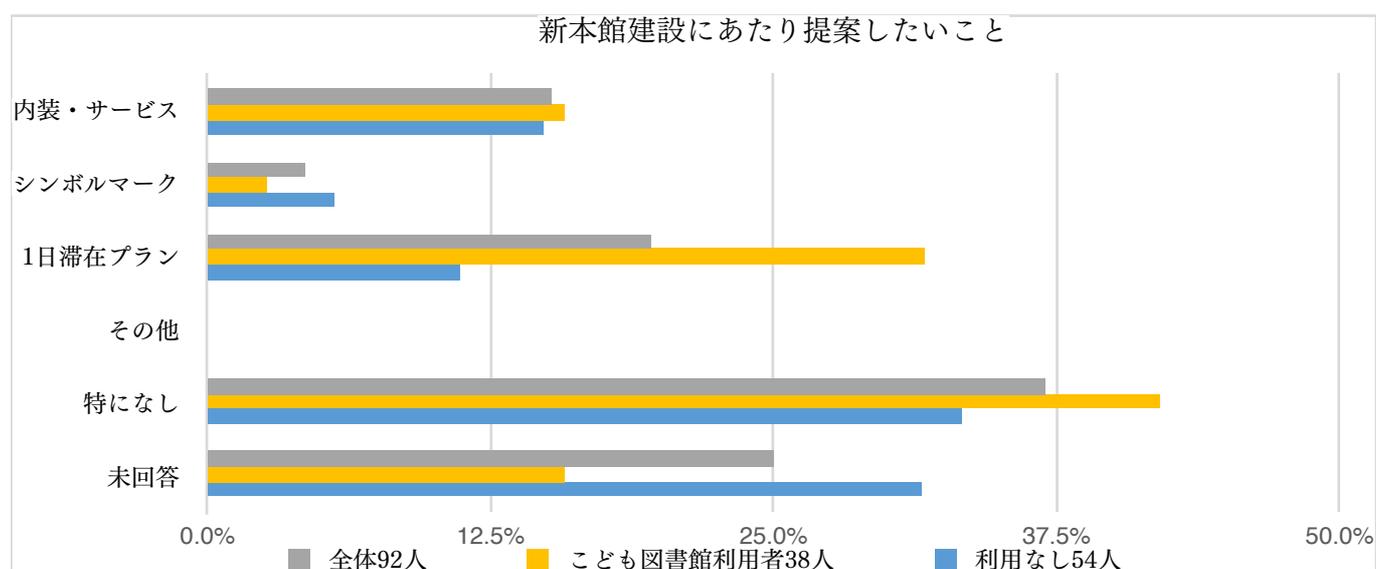
全体では、イベントと前橋こども図書館・プレイルームが目的の来訪が多いという傾向がみられます。

回答者92人中、こども図書館等利用者が38人、利用していない人が54人でした。

前橋こども図書館等利用の有無により回答傾向に差異が見られ、利用者の方がイベント、買い物、飲食の利用率が高いという結果でした。

(4) 新しい本館の建設にあたり、やってみたいことがありますか。

	全体（92人）	利用者（38人）	利用なし（54人）
内装・サービスの提案	15.2%	15.8%	14.8%
シンボルマークの提案	4.3%	2.6%	5.6%
1日滞在プランの提案	19.6%	31.6%	11.1%
その他	0.0%	0.0%	0.0%
特になし	37.0%	42.1%	33.3%
未回答	25.0%	15.8%	31.5%



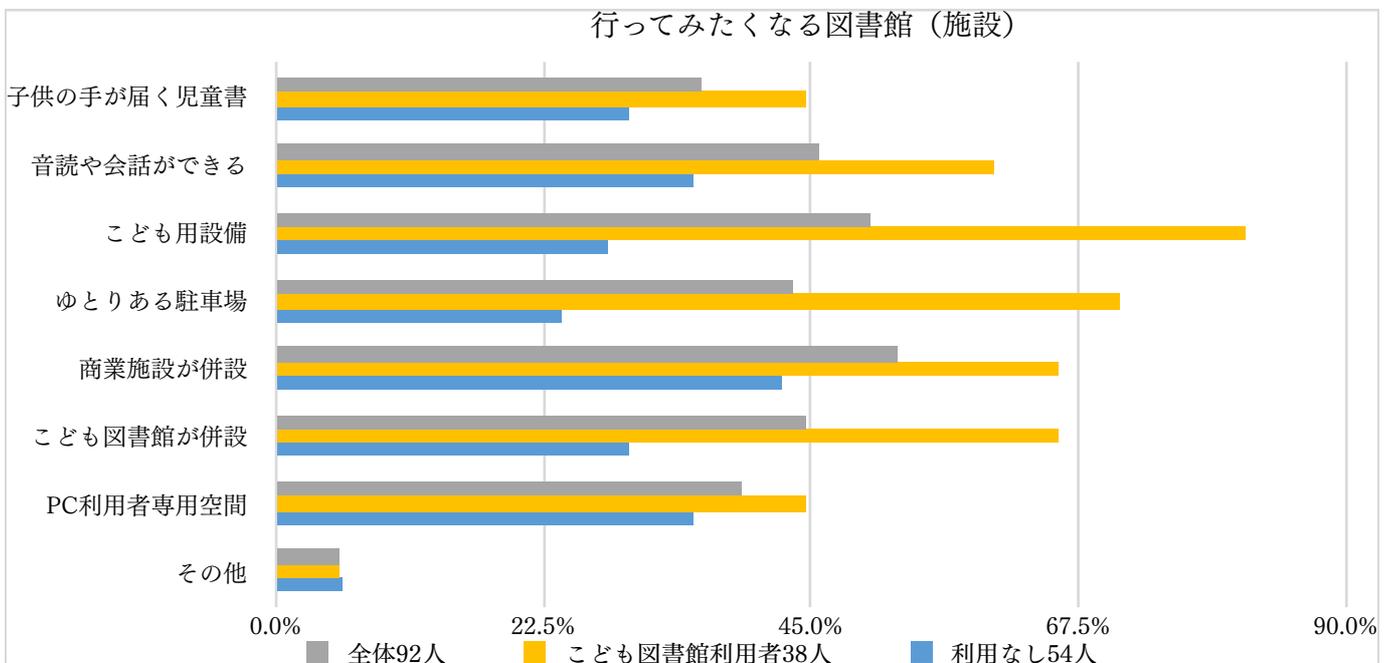
「1日滞在プランの提案」は、前橋子ども図書館等利用の有無で回答に約3倍の差がありました。

(5) 中心市街地にできる図書館に行ってみたくなる「新しい何か」について

どのような図書館なら行ってみたいと思いますか。

5-1施設（複数回答可）

	全体（92人）	利用者（38人）	利用なし（54人）
子供の手が届く高さに児童書	35.9%	44.7%	29.6%
音読や会話ができる	45.7%	60.5%	35.2%
こども用設備 （トイレ、授乳室など）	50.0%	81.6%	27.8%
ゆとりある駐車場	43.5%	71.1%	24.1%
商業施設が併設	52.2%	65.8%	42.6%
こども図書館が併設	44.6%	65.8%	29.6%
Wi-Fi完備のPC利用者専用空間	39.1%	44.7%	35.2%
その他	5.4%	5.3%	5.6%



全体では、各項目とも、その他を除き35%以上でした。

しかしながら、こども図書館等利用の有無により回答に大きな差異が見られました。

【利用者】

各項目とも総じて希望が多く、「トイレ等のこども用設備」は81.6%、「ベビーカーが出し入れしやすいゆとりある駐車場」は71.1%でした。

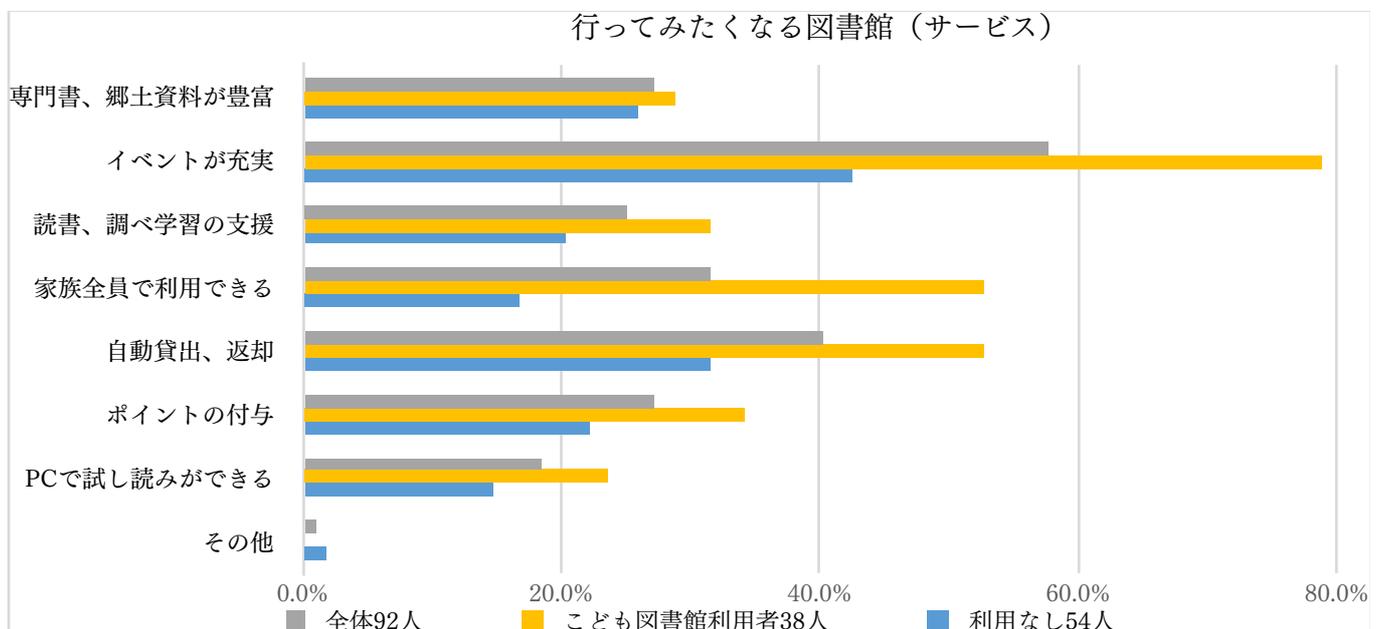
【利用なし】

「カフェや物販などの商業施設が併設されている」が最多の42.6%、次いで「声を出して本を読んだり、会話ができる空間がある」が35.2%でした。特徴的だったのは、「Wi-Fiが完備されたパソコンやタブレット利用者専用の空間がある」で、こども図書館等利用の有無による回答差が9.5ポイントと比較的僅差でした。

(5) 中心市街地にできる図書館に行ってみたくなる「新しい何か」についてどのような図書館なら行ってみたいと思いますか。

5-2 サービス（複数回答可）

	全体（92人）	利用者（38人）	利用なし（54人）
専門書、郷土資料が豊富	27.2%	28.9%	25.9%
イベントが充実	57.6%	78.9%	42.6%
読書、調べ学習の支援	25.0%	31.6%	20.4%
家族全員で利用できる	31.5%	52.6%	16.7%
自動貸出、返却	40.2%	52.6%	31.5%
ポイントの付与	27.2%	34.2%	22.2%
PCで試し読みができる	18.5%	23.7%	14.8%
その他	1.1%	0.0%	1.9%



全体では、「映画会や読み聞かせなどのイベントが充実している」が最多の57.6%、次いで「自動で貸し出し、返却ができる」が40.2%でした。この設問でも、子ども図書館等利用の有無により回答に大きな差異が見られました。

【利用者】

「イベント」が最多で78.9%、次いで「家族全員で利用できる読書環境がある」と「自動貸出・返却」が同率の52.6%でした。

【利用なし】

「イベント」が最多で42.6%、次いで「自動貸出・返却」が31.5%でした。特徴的だったのは、「専門書や郷土資料が豊富で、調べ事がしやすい」で、図書館利用の有無による回答傾向に大きな差が見られませんでした。未来志向の新館を望みつつも、図書館本来の役割の維持を期待する声が一定数存在していることが伺えます。

(6) 50年後・100年後の図書館はどうなっていると思いますか。

【利用者】

- ・図書館に行かなくても本が借りられる。古い本などが適切に保管されている。
- ・50年前、100年前の資料が残っていてほしい。
- ・文字文化はそれなりに残っているのでは？
- ・NFT、電子データによるやりとり
- ・自宅で楽しめるかも
- ・デジタル化が進み電子書籍の貸出が増えつつも、紙の図書の貸出も続いてほしいです。
- ・書籍は全て電子化されている。
- ・デジタル化が進み、図書の閲覧や貸し借りが主ではなくなると思う。
- ・VRなどを使ったバーチャル図書館になると思う。

【利用なし】

- ・少なくとも50年後は残っていてほしいと思います。
- ・IT化が進み、あたたかみがない空間になっていそう。
- ・紙がなくなっているので古い資料や本しかない。
- ・オンラインでできることが増えると思う。
- ・図書館の需要は無くならないと思う。本の手の取りやすさなどのサービスを考えていくべき。
- ・原始的な手続は残しつつ、読みたい本を電子書籍ですぐに取り寄せることができる
- ・期限付き、ありがたみが必要などのテクノロジーがあると楽しいと思います。
- ・デジタル化、アーカイブされている蔵書が端末（PC、スマホなど）で読めるようになっているはず。
- ・まちのセンターポジション
- ・楽しく本がいつまでも
- ・AIが分析し、必要な分野の書籍を提供。また、物をより大切にするようになり、必要不可欠な施設になっている。

IV 結び

4-1 対話が生まれる図書館へ

- 3つのワークショップを終えて

学生、司書WSでは、図書館サービスや司書の果たすべき役割をはじめとしたソフト面について、建築WSではこれからの図書館建築や街と図書館のつながりなどのハード面について、活発な対話が行われました。

若い世代が中心となった学生WSでは、「地域とのつながりや愛着」「多様性」といったキーワードが語られました。図書館には、社会とのつながりを生み出す役割が求められているのだと分かります。高校生や大学生にとっても、少子高齢化や多文化共生など、前橋で暮らすなかでの課題を認識する機会が増えているようです。これからの社会を担う世代にとって、図書館はどのような学びの場であるべきかについて、方向性を見出すための意見を受け取ることができました。そして、その真摯に対話する姿勢に、若い世代の意見が「未来の図書館をつくる」ために、必要不可欠なものであると改めて実感させられました。

オンラインで開催した司書WSには、全国8県と海外1国から、専門職として責任をもって活躍している図書館司書の参加がありました。筑波大学の吉田右子教授から、「北欧図書館は〈文化的刺激を得る〉〈他者との対話〉〈問いを作る〉とすることができる空間である。そして、司書は図書館と人をつなぐ文化の仲介者である」という教えがありました。日本の図書館の専門性を考えるうえで示唆に富んだ言葉であり、参加した司書にとって大きな刺激となりました。意見交換では、

レファレンスのあり方や専門職の育成プログラムの重要性が議題になったほか、日本の図書館を「他者との対話が生まれる場所」にするための取り組みについて議論が白熱しました。このような真剣な議論を繰り返すことが、明日の日本の図書館をより良いものにつな갑니다。図書館職員の所属館や地域を越えた連携は、そのための鍵となるでしょう。

最終回となる建築WSは、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言の発令のため一度延期となり、万全の対策を講じた上で開催しました。前回の司書WSで議論となった「対話が生まれる図書館」を作るためには、建築という視点からどのようなアプローチが可能であるかを考えました。前橋工科大学建築学科の石黒由紀准教授のゼミ生を中心とした学生たちは、ワークショップに向けて熱心なりサーチを行い、前橋市立図書館の建築模型を使った創造的なワークショップを展開しました。参加者が繰り返し対話し、アイデアを共有して作り変えた建築模型は、その場の誰も想像を超えるものでした。4つの模型を1つにした時の変化に、学生も「その瞬間、鳥肌がたった」と話していましたが、このワークショップの実践は、新しいものを生み出すための「他者との対話の価値」を証明しているのだと感じます。

このワークショップの成果は、図書館構想策定ワーキンググループ会議において議論し、図書館新本館基本構想の土台として生かされます。

図書館新本館構想策定ワーキンググループ
山村将士

V 資料

5-1 広報物 未来の図書館をつくるワークショップチラシ

前橋市立図書館制作

Architecture

建築

9.23 THU.

未来の図書館

をつくるワークショップ

SAT

司書

8.21

未来の図書館

をつくるワークショップ

Wed.

学生

8.11

未来の図書館

をつくるワークショップ

Dialogue

01 建築 WS
対話が生まれる図書館建築

02 司書 WS 図書館キュレーターに求められる専門性

03 学生 WS 学生と考える人が集まる図書館

市民の対話の場

前橋市立図書館新館建築部
運営ワーキンググループ

▶ 建築 WS 「対話が生まれる図書館建築」

前橋市立図書館新館の建築が完成した。『未来の市立図書館の建築部』をテーマに、建築部「対話による新しい学びの場、知識と文化の場」をつくるワークショップを開催します。建築部がどのような場所をつくるのか、市民の対話による新しい学びの場、知識と文化の場をつくるためのワークショップを開催します。

日時：令和3年9月23日（木・祝）13:00～15:00
会場：前橋市立図書館 地下講堂
定員：前橋市立図書館職員2名、市民30名
対象：市民30名、市民30名

▶ 司書 WS 「図書館キュレーターに求められる専門性」

公共図書館の発展と発展、図書館が果たしている役割の重要性、また市民の関心の高まりなど、図書館の現状と未来について、司書と市民の対話による新しい学びの場、知識と文化の場をつくるためのワークショップを開催します。

日時：令和3年8月21日（土）13:00～15:30
会場：前橋市立図書館（2階）研修室
対象：前橋市立図書館職員2名、市民30名

▶ 学生 WS 「学生と考える人が集まる図書館」

前橋市立図書館の発展と発展、図書館が果たしている役割の重要性、また市民の関心の高まりなど、図書館の現状と未来について、学生と市民の対話による新しい学びの場、知識と文化の場をつくるためのワークショップを開催します。

日時：令和3年8月11日（水）13:00～15:00
会場：前橋市立図書館（2階）研修室
対象：前橋市立図書館職員2名、市民30名

申し込み・問い合わせ

前橋市立図書館
TEL 027-224-4311
E-MAIL library@city.maebashi.gunma.jp

未来の図書館

をつくるワークショップ

表面

裏面

5-2 ワークショップの講師・ファシリテーター

(1) 学生WS「学生と考える人が集まる図書館」

ファシリテーター NPO法人NextGeneration 小高広大代表

(2) 司書WS「図書館キュレーターに求められる専門性」

講師 筑波大学 図書館情報メディア系 吉田右子教授

ファシリテーター 構想策定WGメンバー・関口雄太、山村将士

(3) 建築WS「対話が生まれる図書館建築」

講師 東北大学大学院工学研究科・小野田泰明教授（構想策定WG有識者）

前橋工科大学建築学科・石黒由紀准教授（構想策定WG有識者）

前橋工科大学建築学科・藤野高志非常勤講師（生物建築舎代表）

協力 菅野 凌 雨宮慎吾

前橋工科大学（大学院）建築学科学生、以下9名

堀越魁徒、太田孝平、吉井平、廣澤昂輝、馬場岳、佐々木遥輝、仲谷真依

高橋直人（修士1年）、小林良成（修士2年）

ファシリテーター 構想策定WGメンバー・山村将士

5-3 参加者総数

	企画	参加人数
ワークショップ	学生WS (8/11)	26人
	司書WS (8/21)	21人
	建築WS (9/29)	44人
	小計	91人
アンケート	子育て世代 (7/18)	92人
	合計	183人

未来の図書館をつくるワークショップ報告書

企画：前橋市立図書館新本館構想策定ワーキンググループ

編集：山村将士 恩幣麻衣 若井 苗 堀越規子

発行：前橋市立図書館

責任者：若島敦子

発行日：2021年11月 初版発行

未来の図書館をつくるワークショップ報告書